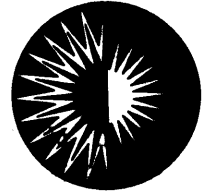




1982年 4月 No.13

技術開発ニュース



限りある資源を大切に

目次

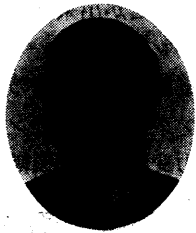
- 6 導体送電線の開発…………… 2
- 配電線雷被害の様相と耐雷対策…………… 3
- 火力発電所温排水の有効利用による
魚介類種苗生産の研究…………… 4
- 通信回線間けつ故障監視装置の開発…………… 5
- タンク底板検査機の開発…………… 6
- 石炭灰の人工軽量骨材化に関する研究
(中間報告) …… 7
- ハマグリの高温度耐性に関する研究…………… 8
- 原子力発電所のポンプシール水
監視用測定器の開発…………… 9
- 環境に適合した温排水の放流方式…………… 10

内容

- 太陽光発電装置の運転開始…………… 12
- 次世代技術検討ワーキング・グループの発足13
- 「全社技術開発シンポジウム」について…14

自 力 更 生

名古屋市工業研究所長 堀 田 一 二 三



中国では、この言葉は古くて新しい。現在もこのスローガンは工場、集会所などに掲げられて生き続けているという。私も、昨年11月に機会を得て、上海、蘇州から南京を経て北京へと、短時日ではあったが工場、工芸研究所などの幾つかを見学して廻ったが、この間に、自力更生が工業生産にどのように生かされているか興味深く感じたことである。

上海で、最初に訪れたのが上海工芸展覧館である。ソ連式の立派な建物の正面に、“独立自主、自力更生、”の大きな看板が先づ目につく。展示は上海地区で生産される工業製品、日用雑貨ならびに工芸品などほぼ全般にわたっている。現在自転車、ミシン、ラジオなどは中国人民の生活に欠かすことのできないもので、各工場ともその生産目標の達成に一生懸命努力していると言う。

自力更生は上海、南京のいくつかの工場で盛んである。ミシン工場では、工程の改善が8,000件に及んでいるとのことであった。また、染色工場では保繕用の旋盤を作ったと聞いた。一方、材料あるいは部品も殆んど自給するのが原則のようである。例えば、ホーロー工場では釉薬の溶解から始め、時計材料工場ではルビーの単結晶の製造から始めている。自転車工場ではフープ材から電縫管を作ることに力を入れていた。

勿論、自力更生には欠点もある。生産方式も工具も自分達で考え、作ることを基本にしているのだから、我々の常識では考えられない廻り道をして生産しているものもある。また、努力している割には、品質の改良がなかなか進まないようである。

さて、ここで我々自身も反省しなければならない点も多い。今日のような生産態勢、生活様式が定着したのも、考えてみれば10数年にしかならないことである。東京オリンピックを出すまでもなく、当時の車の性能、カラーテレビの普及率などは問題にならなかったように思う。我々の研究所でも、幾つかの装置は手製であり、これを使って実験することを自慢したものである。仕事の出来ないのを、装置を買ってもらえないせいにする最近の若い人の風潮に、苦々しい思いをするのは年のせいであろうか。中国の旅は又別の意味で教えられることが多かった。